

04 **OB&OGインタビュー／卒業生は、いま。**
自分自身を愛で満たす「ご自愛ケア」のススメ
北海道大学 大学院文学研究院 文化人類学研究室
専門研究員・博士(文学)
福島 令佳 さん

05 **学生たちの素顔**
タイと日本の架け橋になりたい。
子どもたちと出会い、夢が生まれた。
経済学部 経営情報学科3年 劔持 英梨香 さん

06 **先生たちのその素顔**
「死にたい気持ち」を受け止める社会を願って
社会福祉学部 心理学科 専任講師
高橋 あすみ 先生

07 **学生広報委員 企画ページ**
キタボシ×HOKUSEI@COM
“冬”の北星学園大学の見どころご紹介

08 **HOKUSEI INFORMATION 北星学園大学からのお知らせ**
●2027年4月新設予定
情報科学部 情報科学科 特設サイト公開！
まちがいさがしクイズ
北星学園大学オリジナルグッズが当たる！



02-03

特集：日本語教員養成プログラム

2026年4月

国家資格「登録日本語教員」
養成課程がスタート

文学部長 中嶋 輝明 教授

文学部 英文学科 柳町 智治 教授

経済学部 言語教育部門 岡田 みさを 教授

文学部 共通科目部門 田村 早苗 准教授



経済学部 経営情報学科3年
剣持 英梨香 さん
(北星学園大学附属高等学校 出身)

本学のスミスミッションセンターでは、タイ王国での国際ボランティア・ワークキャンプを毎年実施しています。3年の夏休みに参加した剣持さんは奉仕活動と文化交流を通じて、自身の将来につながる大きなギフトを受け取ったようです。

子どもたちと絆を結んだ濃密な9日間

本学に進学した姉からタイのボランティアプログラムについて聞いていて、入学前から興味を持っていました。入学後は説明会に毎年参加してタイの歴史や文化、先輩方の体験談などを伺い、参加したいという思いがますます強くなりました。母がタイ出身のためヒアリングは8割ほどできますが、話す方は得意ではありませんでしたので、母の協力で会話力の強化にも努めてきました。プログラムは9日間の日程で、1日目は移動とオリエンテーション、2日目からパタヤの児童養護施設や市役所などを訪問しました。児童養護施設では生後6カ月から18歳まで、さまざまな事情のため家庭で暮らせない子どもたちが生活をしています。施設の掲示板に私たちの顔写真とニックネームが掲示されていて(タイでは本名との別のニックネーム「チューレン」で呼び合う習慣があります)、私たちが到着すると子どもたちがチューレンを呼びながら「待ってたよ!」と駆け出してきてくれたんです。その瞬間、緊張が一気にほぐれました。日本から持参した折り紙で遊んだり、縄跳びやサッカーをしたり、一緒にご飯を食べたりするうちにすっかり仲良しに。現地はとても暑かったのですが、子どもたちが「水を飲んで」「休んで」と気を遣ってくれて、自分たちも厳しい境遇なのに他人を思いやる優しさを持っていることに感動しました。最終日は子どもたちが日本語で「忘れないで」と歌ってくれて、メンバー全員大号泣!別れがほんとうに寂しくて、濃密な9日間だったと改めて実感しました。

旅行ではできない体験が進路目標のきっかけに

これまでも母の帰省でタイを訪れる機会はありませんでしたが、初めて児童福祉の現場に触れ、まだまだ知らないことがたくさんあると痛感しました。タイではストリートチルドレンや児童虐待の問題も根深いのですが、パタヤは小さな自治体なので職員がこまめに家庭訪問を行って親との信頼関係を築くなど、日本とは異なる対応にもいろいろ考えさせられました。ふつうの旅行では絶対にできない体験ができて、参加してよかったと心から思います。もともと外資系企業に興味があったのですが、帰国後は「タイで働きたい」という明確な目標ができました。夢はタイ国際航空の客室乗務員。現在はビジネスマインドと語学力に磨きをかけて、タイ支社がある企業のインターンにエントリーしています。将来はタイと日本の架け橋となれたらうれしいですね。

タイと日本の架け橋になりたい。
子どもたちと出会い、夢が生まれた。



1. パタヤ市副市長さんたちと昼食を一緒に、現地での児童福祉活動や交流などについてお話しする貴重な時間を過ごしました。
2. 子どもたちと一緒に日本のおにぎり作りに挑戦。食を通じた交流を深めました。
3. 帰国を控えて子どもたちと過ごす最後の夜。夏祭りの催しを行い、笑顔あふれる時間をみんなで楽しみました。
4. ついに最終日。子どもたちの歌に号泣した後はビーチへ飛び出して大はしゃぎ!思い出を形に残し、子どもたちと名残惜しいお別れをしました。

Featured Faculty Member

先生たちの その素顔

社会福祉学部 心理学科 専任講師
高橋 あすみ 先生

PROFILE

北海道北見市出身。
2015年 筑波大学人間学群 心理学類卒業。
2021年 筑波大学大学院 人間総合科学研究科
疾患制御医学専攻 一貫性博士課程修了。北星
学園大学文学部(学習サポートセンター)助教を
経て2023年より現職。



「死にたい気持ち」を受け止める社会を願って

■ 社会への怒りが自殺研究の原動力

高校生の時に自殺のニュースを見ていて、コメンテーターの「周りに迷惑をかけるなら一人で死ねばいいのに」という言葉に疑問を抱きました。そして自殺未遂の心理学に関する本を読んで「自殺とは決して『自由』な死などではなく、さまざまな問題を抱えた末に『強制』された死であると私はとらえている」※という言葉に突き動かされ、自殺を研究テーマに選択。学部時代は仲間を集めて自殺防止の啓発活動を行ってきました。

私の自殺研究の原動力は「勝手に死ねばいい」という世論への怒りであり、自殺に追い込まれるほど苦しい思いをしている人がいる社会への怒りです。自殺を考えている人は自己に没入していて、周りから疎外されている意識があって助けを求めるとにりにくい、といった仮説も卒業研究で検討しました。研究データを収集しているウェブアンケートでも、希死念慮がある人が全体の1/3ほどという事実が浮かび上がってきます。

※出典：高橋祥友(2004)「自殺未遂 『死にたい』と『生きたい』の心理学」講談社

■ メディアを自殺予防に活用する仕組みづくり

コロナ禍以降に有名人の自殺報道が増えましたが、報道が一般人の自殺を誘発するという事実があります。しかしそれは必ずしもファンの後追い自殺ではありません。もともと自殺を考えていた人が亡くなった有名人と属性が重なる部分があると同一視して、背中を押されるように自殺行動に至ってしまう側面があるのです。メディアと自殺の関わりは深く、映像の自殺に関する描写は影響力が強いためガイドラインや手引きがあります。しかし漫画やアニメは自殺予防の文脈での指針がなく、無法地帯と言っても過言ではありません。そこで最近では自殺の描写に関する安全性を確保するため、漫画の監修にも携わりました。

現在の日本でメディアと自殺の問題を研究している専門家はほとんどいません。メディアが情報発信する前に専門家が相談に乗れたり、アドバイスできる仕組みが作れば、メディアを自殺予防に活用できるのではないかと期待しています。

■ 目指したいのは「安全に“死にたい”と言える社会」

私の研究活動は、今死にたいほどつらい人にとってはノイズのようなもの。学生時代の啓発活動に対して、当事者から批判のメールが届いたこともあります。だからこそ自分が恵まれた立場から語っていることを忘れず、自殺をめぐる社会的状況の背後にいる一人ひとりの当事者に思いを馳せたいと思っています。現代は自殺を口にすることがはばかれる社会ですが、目指したいのは「安全に死にたいと言える社会」。死にたい気持ちを受け止めることができる社会になれば、自殺は減ると考えています。



休日はボードゲームで気分転換。動物を集めてサファリパークを作る「ゆくカバるカバ」は夫と2人で遊ぶと大いに盛り上がります！



自殺を巡る報道や大学の現状などに着目した著書を出版。最新刊「有名人の死に心がゆらいだら」は、有名人の死の影響や喪失後を生きる人々へのケアなどを論じた一冊



本学WEBサイトコンテンツ「研究者ストーリー」で高橋 あすみ先生のインタビュー動画を閲覧できます。

<https://entry.hokusei.ac.jp/scholar/takahashi-a/>



今こそ!

北星に行こう!!!!

色づいた紅葉が舞い落ち、木の枝が震えだして、今年も純白の結晶が北の大地に降り注ぐ季節になりました。

今回は“冬”の北星学園大学の見どころをご紹介します!!

“冬”北星学園大学の代表格! 巨大クリスマスツリー!



キリスト教では12月25日までの4週間を「アドベント (Advent)」といい、イエス・キリストの誕生を待ち望み、アドベントカレンダーや、アドベントリースなどさまざまな習慣があります。北星学園大学では、ではアドベントの一環として、キャンパス中庭に巨大なクリスマスツリーを設置。点灯式当日はツリーを囲んでカウントダウンで盛り上がり、クリスマスシーズンの到来をみんなで喜び合います。

ツリー作りでは、ワイヤーモールや、さまざまな飾りつけを行い、紙芝居鑑賞など地域の方々に楽しんでいただきました!

エントランス前の中庭に堂々とそびえ立つ、きらびやかな電飾に彩られた巨大ツリー。北星学園大学ミス・ミッションセンタープレゼンツのクリスマス恒例イベントです。

昨年は12月1日に点灯式が行われ、学生、近隣にお住まいの皆さんが参加。聖なる夜をともに過ごす素敵な一日となりました!!



Smith Mission Center スミス・ミッションセンター

チャペルタイム(礼拝)や各種の演奏会、クリスマス行事など多岐にわたる活動を行っています。

- 月曜から金曜まで毎日(学期期間中)、12時20分から40分はチャペルタイム!!
- 火・木曜日: 通常のチャペルタイム / 対面形式
- 金曜日: イングリッシュチャペル(英語による礼拝) / 対面形式

オンラインでの参加も可能。多彩なプログラムを通して北星らしさを味わい、元気をもらえる、心を豊かにするひとときです。



TOPICS

2027年4月新設予定

情報科学部 情報科学科※ 特設サイト公開!

※仮称・設置構想中(構想中の内容は学部学科名称を含めて予定であり、計画変更の可能性があります)

ただいま北星学園大学では、「情報科学部 情報科学科」の2027年4月新設に向けて準備を進めています。既存の人文・社会系4学部に加え、本学初の理系学部を設置することで5学部9学科体制を実現。文理融合の学びを実現し、多様な学問分野を網羅する真の総合大学として歩み始めます。

情報科学部の設置にあたり、公立千歳科学技術大学との連携協定や協力企業との連携による社会実装プロジェクト、新学部棟の建設計画など、充実した教育環境を徹底整備。人間とAIが共創する未来を担うエンジニアの育成を目指します。

現在公開中の「情報科学部 情報科学科特設サイト」では「よくある質問」「オープンキャンパス等イベント情報」なども随時更新していきます。ぜひ最新情報をチェックしてください!



情報科学部 情報科学科

2027年4月新設予定

■情報科学部 情報科学科(仮称・設置構想中)特設サイト

<https://www.hokusei.ac.jp/informatics/>



北星学園大学オリジナルグッズが当たる!

まちがいさがしクイズ

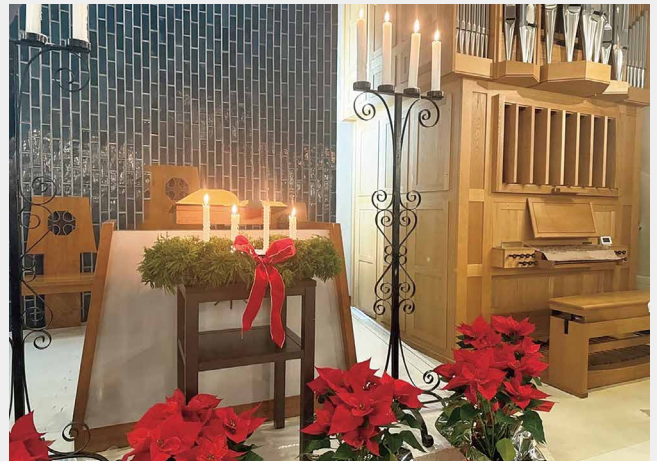
北星学園大学の構内を紹介する2枚の写真を見比べて、右の写真の5個の間違いを探してください。Webやハガキで応募すると、抽選で10名様に北星学園大学オリジナルグッズが当たるチャンス!

[今号のまちがいさがしスポット]

チャペル

正式名称を「ウェブスター・グロウプス・ホール」といいます。

チャペルでは、月曜日から金曜日のチャペルタイム(大学礼拝)やクリスマス礼拝などのキリスト教に係る行事だけではなく、卒業式やコンサート、結婚式なども行われています。



★応募要項

下記応募フォームまたはハガキにて以下の内容をご記入の上、下記送付先までご応募ください。

- ① 問題の答え(まちがい5個) ② 郵便番号 ③ 住所 ④ 氏名
- ⑤ 電話番号 ⑥ HOKUSEI@COMのご意見・感想

送付先: 〒004-8631 札幌市厚別区大谷地西2丁目3番1号

北星学園大学 HOKUSEI@COM「まちがいさがし」係

■応募締切日: 2026年3月1日(日) 必着

■応募フォーム: https://www.hokusei.ac.jp/hokuseicom_quiz/



★正解発表

「HOKUSEI@COM」41号(2026年8月発行予定)に掲載いたします。

※ご応募は1号につき、おひとり様1回までとさせていただきます。

※正解者の中から厳選なる抽選の上、当選者を決定いたします。

当選の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。

※お送りいただいた情報は賞品の発送のみを目的に使用させていただきます。

※ご住所・転居先の不明等で賞品をお届けすることができない場合は、当選を無効といたします。

前号の正解

